

森林官による地域活動について ～小田を任せ、小田に意気る～

四国森林管理局 愛媛森林管理署 野村 祐樹
森林整備部 資源活用課 水田 英司
(元 愛媛森林管理署)

1. 課題を取り上げた背景

国有林野事業の歴史の中で、森林管理署の出先機関である森林事務所で勤務する森林官は、地域住民の方々と公私問わず密接な関係を築き上げてきました。現在は、その地域とのパイプ役だった地元出身の森林技術員の減少や森林事務所・官舎の町部への移設、森林官の単身赴任の増加、2～3年単位での異動で地域との繋がりが徐々に希薄となっています。一方で、市町村合併により広域化した管轄区域において、地元自治体をはじめ、消防署・警察署・



(写真-1) 愛媛県内子町小田地区の集落

学校などの関係機関と密接な関係を築く必要があります。そこで、私たちは、少しでも地域での国有林の存在価値を再構築できたらと考え、森林事務所がある愛媛県喜多郡内子町小田地区(写真-1)を中心とした地域活動に参加する中で、地域住民と交流・会話を重ね、現在、何を国有林に求められていて、何が実行可能なのかを探ることとしました。

2. 森林官の仕事

私たちの森林事務所は愛媛県喜多郡内子町に所在し、笠取山や大川嶺など標高 1,500m 級の山々に囲まれ、深い溪谷を形成している「小田深山」があります。小田第一・第二森林事務所は約 5,500ha を管轄しており、この小田深山を現在は、森林官 2 人で管理しています。小田深山の林内には 2m 近くのスズタケ(写真-2)が多く繁茂し、歩くだけでも大変な林況の下で、境界巡検や ICT を活用した各種調査(写真-3)などを進めています。また、製材工場での情報交換(写真-4)による新しい知識習得や、他局の取り組みを参考に、森林資源の豊富なこの小田深山をよりよい山にしていけるために日々努力しています。



(写真-2) 約 2m のスズタケ



(写真-3) ICT を活用した収穫調査



(写真-4) 製材工場での情報交換

3. 取り組みの経過

- ① 地域の歴史やこれまでの国有林と地域との繋がりの経過を知ることが必要だと考え、職場の先輩やOB職員、昔国有林と関係のあった方々に、当時の職員と地域の方々との繋がりについて聞いてみることにしました。
- ② 地元との様々な事案における相互応援体制の確立には、まず人を知ることが必要であり、小田地区で開催される地域行事や自治会活動へ積極的に参加し、地域住民との交流を深めました。
- ③ 消防署、警察署の関係機関と、災害時や遭難者捜索活動などの対応について協議し、連携強化に取り組みました。
- ④ 小田深山国有林を多くの人が四季を通じ訪れていることから、小田深山の魅力をより多くの人に広く伝えるべきと考えました。

4. 実行結果

- ① 地域の歴史についてOB職員と先輩職員

(写真-5)からは、今は跡形もないがいろんなところに住宅があり多くの人が小田深山に住んでいて、当時の営林署職員の子どもたちが通う学校もあったことや、大正12年に、製品事業所がある淵首から貯木場がある宮原までの約19kmに鉄道が敷かれ、アメリカ製機関車の『バルカン』(写真-6)で木材を搬出していたことなどを聞くことができました。そのアメリカ製機関車のバルカンについては、「林業の主役で地域の繁栄のシンボルで誇らしかった」など、当時の賑やかな様子を伺えました。

また、小田深山には「七供養」と呼ばれる念仏供養が遺されています。先輩方に聞いたところ、昭和40年頃に職員が1年に7人も作業中や病気で亡くなったため、小田深山の7箇所(生草(なまくさ)、桶小屋(おけごや)、本谷(ほんたに)、はなつき、地蔵淵(じぞうぶち)、平川(ひらかわ)、桎小屋(まさごや))にスギやヒノキ、カエデに祠を祀り供養したものとわかりました。私たちも歴史を重んじ、七供養の箇所を全て回り盛り塩と御神酒を供え先人を供養しました。

更に、元郵便局員の方は、「小田深山に製品事業所があった頃には、様々な行事があるたびにお酒を酌み交わすなど交流が深かった」などと話され、国有林が地域の方々と密接な関係を築いていたことが伺えます。



(写真-5) 職場の先輩やOB職員へ聞き取りの様子



(写真-6) アメリカ製機関車「バルカン」

- ② 地域の各種行事にも積極的に参加することを心がけました。平家の落人伝説にちなんだ先祖の霊を供養する「燈籠まつり（写真-7）」や、秋季大祭（写真-8）では小田獅子舞保存会の一員となり、獅子舞を披露したり、スポーツ交流では、バレーボール大会や駅伝大会などへ参加しました。さらに、防災訓練、自治会館の清掃、カーブミラー磨き（写真-9）などの自治会活動にも参加し、地域の方との交流を通じて、「久しぶりに森林管理署の職員が行事や自治会活動に参加してくれるようになり大変うれしい。森林管理署職員に対する見方が変わった。」などの声をいただきました。

私たちも、地域の一員として継続して積極的に行事などに参加し、いろいろな方々との交流を通じ、人間形成にも繋がる経験ができることが重要だと考えました。



（写真-7）燈籠まつり



（写真-8）秋季大祭（獅子舞）



（写真-9）自治会活動の様子

- ③ 地元と連携・協力した、災害時や遭難者捜索活動の強化の取り組みについては、警察署・消防署へ出向き、図面に各種事業箇所や契約期間、緯度経度を記すなどして国有林野事業についてわかりやすく説明したところ、大変好評でした（写真-10）。また、当署が保有するドローンを活用した訓練なども含めた緊急時の対応に双方が協力して取り組むという意思の統一を図り、消防署からは、愛媛県の防災ヘリや、平成29年2月より運行開始したド



（写真-10）警察署・消防署と意見交換

クターヘリの運用について詳しく説明を受けました。相手の顔が見え、さらに消防サイドの動きがわかったことで、万が一の場合にもスムーズに救援を要請できると確信できました。

さらに、「救急車は高さが約2.6mあり、林道などで雑木の枝に当たってしまうので伐っておいてもらいたい」などといった要望もあり、連携・協力に向けて相互の理解が深まる大変有意義な場となりました。

この消防署とのパイプづくりは、国有林サイドの緊急時対策の確立という観点からも有効と考えられ、ほかの森林事務所でも同じように取組が広がればと強く願うところです。

- ④ 小田深山国有林の魅力発信について、平成 29 年度においては、主に地元子ども達に向けて取り組みました。近隣の小学校と幼稚園に出向いて森林官の仕事や小田深山国有林について説明し、授業に国有林での森林環境教育を組み入れてもらうことができました。幼稚園では、私たちも「森のサンタさん」としてクリスマスオーナメント作りを実施し、子どもたちも小田深山で採集した松ぼっくりやカヅラに触れ、楽しくオーナメント作りができました。先生も子ども達からも大変好評で「またやりたい」などの声をいただきました。（写真-11）



（写真-11）幼稚園でのクリスマスオーナメント作り

また、平成 29 年 8 月に、小田深山のスキー場で開催された内子町主催の林業体験型アウトドアフェス「ワン・ツー・ツリー・フォレスト」（写真-12）では、こちらから企画を持ち込んで参加し、森林自然探検隊として実際に小田深山の木々に触れてもらい、国有林として守られてきた山の魅力を内子町内外の子どもや親に伝えることができました。なお、このイベントはウッド・デザイン賞 2017 を受賞し、私たちも地域振興に貢献できたのではないかと喜んでいます。



（写真-12）林業体験型アウトドアフェス「ワン・ツー・ツリー・フォレスト」

この2つの取り組みの様子は、町の広報誌にも掲載されました。（写真-13）こうした取り組みを通じて、子ども達が地元の小田深山国有林の素晴らしい自然に触れ、成長してからも自慢できる故郷の記憶になってほしいと願っています。



愛媛森林管理署の職員と楽しくリースづくり

小田深山からのクリスマスプレゼント 園児が森の素材でリース作りに挑戦

小田地域の豊かな森林を身近に感じてほしいと「園児たちとクリスマス・リース作り」（愛媛森林管理署主催）が12月20日、小田幼稚園で行われました。

森林管理署の職員3人が、小田深山でとれた松ぼっくりやあすなろの葉、カズラの輪などを手に来園すると園児たちは大喜び——。サンタクロースや森の話をしながら、色とりどりのリースを作っていました。



1. 小型バックホウのガールすくい子どもたちに大人気 2. スマホスピーカーづくりに挑戦する園子 3. ハンモックに揺られて森林浴 4. 初めてのチェーンソー体験は緊張感も楽しい

森と林業の魅力を凝縮した2日間 「ワンツーツリーフォレスト」

標高1000mで林業体験とキャンプを楽しむ「ワンツーツリーフォレスト」（同実行委員会主催、武田淳実実行委員長）が8月18・19の両日、ソルファ・オダスキーゲレンデで行われました。

2日間で約700人が参加し、木材搬出を体験できる「こどもきこり市場」や産材を利用した木工体験の他、林業機械を使った丸太積みやボールすくい、森林体験など、林業や森に触れられる催しを企画しました。またゲレンデ内の杉を伐採・造材して作業を実演したり、宿泊客限定の天体観測を行ったりと、初開催の昨年より内容が充実。子どもたちの生き生きとした表情や楽しそうな笑顔が、たくさん見られました。

松山市の河野篤紀くんは「機械が好き。オモチャとは全然違って楽しかった。初めて使ったチェーンソーのブルブルがすごかった」と興奮気味に感想を話しました。武田実行委員長は「林業機械の働きや森林で過ごす心地よさなど、山や林業の魅力を紹介できた。今後も活動を広げて、林業に関わる人を増やしたい」と意気込みました。

（写真-13）内子町広報誌掲載

また、地元内子町役場に伺い、稲本町長に私たちの活動状況を報告し、小田深山の魅力の発信方法や今後の施業方法について意見交換を行ってきました。（写真-14）

今後とも、署と連携を密にして、町や地元が望む国有林の姿を把握したり、林業の成長産業化推進の窓口的役割の強化に努める考えです。



（写真-14）内子町長と意見交換

5. 考察

最後に、今回の取り組みを通じて、改めて、これまで国有林が地域と密接な繋がりを持ち、公益的機能の発揮や観光面、雇用の場の提供に寄与してきたことを学びました。その大切な役割は、山火事対策などの防災協力も含めて地元住民の支えの元に構築され、引き継いでいかなければならないことも多数あると気付かされました。我々は異動を伴いますが、在任期間は地域に溶け込み、この地区で仕事・子育てができることは貴重な経験であり喜びだと感じています。次世代に繋がる山作りにも、伝統が重要であり、それを引き継ぎ新しい視点で捉え、新しいやり方を試し、根付かせ、後輩に伝えていくのも我々の使命であると感じました。今後とも「あってよかった国有林」と言われるよう取り組んでいきます。

